

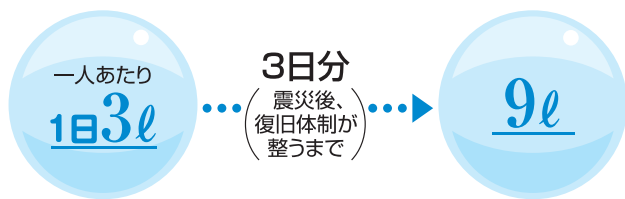
災害が起きる前に

“いざという時の水を貯えておきましょう”

飲み水の確保

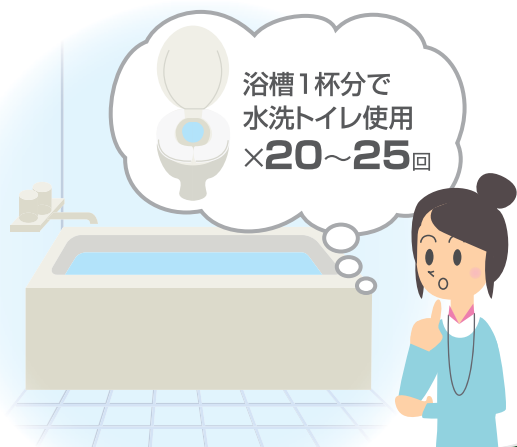
大規模な震災のあとには、水道水が濁ったり断水したりすることがあります。これまでの経験から、救援物資や復旧の体制が整うまで3日程度必要です。

人間は生きていくために、最低1人1日3ℓ程度の水が必要といわれています。家族用の飲料水は、飲料用の保存水やペットボトル水などで備蓄しておくよう心がけましょう。



生活水の確保

災害により断水した時には、飲み水以外にも、水が必要となります。浴槽などに水をためおきしておく、水洗トイレ用の水を流す時にも便利です。浴槽1杯分のためおき水があれば、水洗トイレを約20~25回分も使うことができます。



“災害に備えて拠点給水所の確認を”

災害時には、浄水場、配水場、耐震性貯水槽の計34カ所を「拠点給水所」として開設するほか、給水車を利用して避難所等へ応急給水を行います。お近くの避難所と一緒に確認しておきましょう。



耐震性貯水槽所在施設

- | | | | |
|------------|-------------|-------------|--------------|
| 1 北区役所北出張所 | 5 湊小学校グラウンド | 9 亀田公園 | 13 坂井輪小学校 |
| 2 大山台ホーム | 6 旧万代小学校 | 10 水道局秋葉事業所 | 14 黒埼地区総合体育館 |
| 3 竹尾小学校 | 7 女池小学校 | 11 坂井輪中学校 | |
| 4 水道局東庁舎 | 8 江南区役所 | 12 内野小学校 | |

●お問い合わせは ☎ 0120-411-002 水道局経営企画室へ

平成23年度決算版 環境会計を作成しました

環境会計とは、環境保全の取り組みにかかった費用とその効果を、貨幣単位(経済効果)と物量単位(環境保全効果)で把握・測定し、公表する仕組みです。環境会計に記載した、主な環境に配慮した事業について、ご紹介します。このほか、環境会計の詳細は、水道局ホームページや市政情報室でご覧いただけます。

循環型社会の推進

建設副産物の再利用

水道管の工事で発生した建設発生土やコンクリート・アスファルト塊などをリサイクルし、再利用しています。

経済効果と環境負荷低減効果

平成23年度に実施した環境配慮の取り組みの結果、経済効果(環境保全対策によって削減された経費)が約1億8,600万円、二酸化炭素の排出削減量は約560t-CO₂(一般家庭約75世帯の年間排出量に相当)になりました。

環境負荷の低減

高効率化による省エネルギー

本市は平地が多いため、ポンプを使用した配水の割合が高くなっています。そこで、高効率モーターや高効率ポンプを採用し、電力消費の低減を図っています。



自然エネルギーの活用 信濃川浄水場の太陽光発電設備
太陽光発電を信濃川浄水場(出力100kw)と水質管理センター(出力19.8kw)で実施しています。

水道事業経営審議会を開催

平成24年12月19日、平成24年度の第2回水道事業経営審議会を開催しました。会議では、平成25年度当初予算要求内容のうち、業務の予定量や、予算編成の基本的な考え方、これまでの審議会委員から出された意見に関連する主な予算要求項目などについて審議しました。また、平成27年度以降を計画期間とする『(仮称)次期水道事業中長期経営計画』の策定スケジュール等について、事務局から説明を行いました。経営審議会の議事録や資料等は、水道局ホームページや市政情報室でご覧いただけます。

●お問い合わせは ☎ 0120-411-002 水道局経営企画室へ